

□ 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。

〈我がまま〉と〈ワガママ〉の違いとは何だろう。また、〈我がまま〉への目覚めがどのようなときに単なる〈ワガママ〉になってしまうのだろうか。

(I) 何が〈ワガママ〉と感じられるかは、社会によってかなり違うということを認識しておきたい。例えばアメリカに行くと、多くのアメリカ人のあまりの自己主張の激しさに閉口する人が多い。「私がこうしたい!」ということ言い張るのが当たり前で、言わなければ何も考えていないと見なされ、日本のように「口に出して言わなくても、何を考えているかを感じてくれる」社会が懐かしくなる。このように私たちから見ればかなりの〈ワガママ〉を言っても、〈ワガママ〉とは見なされない社会もある。しかしそうした社会でも、明らかに〈ワガママ〉ならば、強い調子で否定され拒否されるわけで、(II) そこには〈我がまま〉と〈ワガママ〉の差は存在しているわけだ。 **A**

そうした文化の差、社会の差を考慮に入れつつ考えたいが、この〈ワガママ〉を嫌う日本社会でもこのところ〈ワガママ〉としか思えない振る舞いが増えてきているのも事実だ。電車の中で大声での携帯電話の使用はこのごろ若者よりも大人のほうを多く目にするようになった。商品へのクレームもあるところまでは消費者の当然の権利だし、製造者の改善のためにもなるが、偏執的なクレーマーとなると話は別だ。子どものことで一方的に教師を責め立てる親。幼稚園や小学校の運動会は、自分の子ども「だけ」をビデオに収めたい親の場所取り合戦になり、お互いに「お前が邪魔なんだよ」と怒号が飛ぶ。そしてインターネットの掲示板などで炸裂する(X) で攻撃的な発言など。どうしたらこんなに自己中心的に振る舞えるのかといぶかってしまうような場面に遭遇することが少なくない。 **B**

そうした状況でいつも感じるのは、「人の目」を気にしてきた日本人がいったん「人の目」を気にしなくなったとき、そこには自分自身の行動を律する何ものも存在していないのだろうかということだ。(III)、町中の道の上で座り込んでいる若者たちに聞くと、「通行人は単なる風景で、人だとは思っていないから」という答えが返ってくる。「人の目」は気にするが、いったん「人」でないと思ってしまうは何でもできる。そうした〈ワガママ〉な行動は、「人の目」に縛られてきた社会の反動ではないかと思えるのだ。

数年前、私の教えている東工大で留学生向けの講義を受け持ったとき、「日本の大学のどこに一番違和感を感じた

か？」と聞いたことがある。その答えにびっくりした。ひとりが「学生が授業中寝ていることです」と答えたところ、皆が「そうだ、そうだ」と大きくうなずいたのである。「どうして大学生が教室で寝ているんですか？ それでも大学生ですか！」と言うのだ。

それを日本人大学生にぶつけてみると誰もが「だって、誰にも迷惑かけていないんだから、寝ようが勝手じゃないですか」と言う。「寝ていて、授業についていけなくて後で困るのは自分なんですから、別に他人に何か言われる筋合いじゃないでしょう」。(IV)、海外からの留学生にとってショックなのは、「大学生にもなって教室で寝ているあなたには、大学生としてのプライドがないのか？」ということなのだ。寝ていたら先生から怒られ、成績が下がるならば寝ない。友達から非難され、最低人間だと思われるのなら寝ない。しかしそうした「人の目」がなくなれば、寝てしまう。しかし、「人の目」がなくなっても、「自分の目」から見て教室で寝ることは大学生として恥ずかしいことだと思わないかと留学生たちは問うているのだ。

前述したように、ルース・ベネディクトは、「人の目」から非難される「恥」を強く意識する日本文化を「①恥の文化」と呼んだ。しかし、彼女はもうひとつの「恥」を見落としていた。それは「私としたことがこんなことをしてしまうとは！」という、「自らを恥じる」という恥である。誰からも見られていなくても、恥じる。あるいは、「こんなことをしてしまって、ご先祖さまに申し訳ない」「亡き恩師の期待を裏切ってしまった」と、既に生きていない人に対して恥じる。日本人の倫理観は、単に自分の周囲の「人の目」だけではなく、先人たちや恩師たち、そして自分自身に対して恥ずかしいという感覚にも支えられていたのである。C

しかし、そうした恥の感覚が薄れ、ベネディクトの言うように「人の目」のみを気にするように「恥の文化」が縮小してしまい、それ故「人の目」が気にならなくなれば何でもやってしまうというのが現在の日本人の姿なのではないか。そして、そこには決定的に欠けているものがある。D

自分自身に対する自尊心がある人間ならば、「人の目」がないところでも、何でもやり放題ということにはならない。自尊心とは自己信頼と言い換えてもいい。自分自身が尊い存在であるということを知っている人。尊重されるに足る存在だと感じている人。自己を信頼し、自尊心のある人は、「私としたことが、恥ずかしい」ということはあまりないし、してしまっただけでも反省する。しかし、自尊心が低く「自分なんかどうせたいしたことないんだよ」と思って

いる人は、人の目がなくなってしまうばどんなことでもできてしまう。自分という存在が、〈ワガママ〉な行動を律する歯止めにならないのだ。

〈我がまま〉が〈ワガママ〉に転ずるかどうか。それは、そこに自尊心、自己信頼があるかどうかが大きな分かれ目になる。自己信頼に支えられた〈我がまま〉の追求は自分を生かし、他者も生かすものとなることが多い。しかし、自己信頼のない〈我がまま〉は〈ワガママ〉となって他人に多大な迷惑をかけるものになりがちだ。(V)、現在の〈ワガママ〉が横行する社会は、私たちひとりひとりの自己信頼、自尊心が低い社会であることの②裏返しだと言えるのである。

それは私たちの「敵討ち」であるとも言える。自己信頼や自尊心は私たちが成長していく中で与えられるものだ。私自身が存在しているだけで喜ばしいことだと、親からの「無条件の愛」によって私は愛されるに足る存在だということを知る。あなたは尊重されるに足る存在だと、教師や友達たちから「私自身への信頼」をプレゼントされる。そうした経験によって私たちは自分自身が尊重され、信頼に足る人間だという感覚を身につけるのである。しかし、第2章で述べたように現在の日本社会は子どもたちの自尊心を傷つけ、自己信頼を抑圧するような「生きる意味」のシステムを持っていた。「条件付きの愛」を与え、「いい子」を育てるような社会が続いてきたのだ。

多くの人たちは自尊心や自己信頼の低さの陰で「恨み」を抱いている。あるがままの自分自身を認めてくれなかった親に、社会に恨みを抱く。「人の目」を押しつけて自分自身を抑圧するように仕向けてきた「生きる意味」のシステムに恨みと憎しみを抱いている。そして自由になったら何よりもその恨みを晴らしたいと思っている。だから、いったん「人の目」から解放されてしまうと、私たちの行動は「敵討ち」になる。「人の目」によって抑圧されていた様々な行動がいつぱんに噴出し、とてつもない〈ワガママ〉になってしまうのだ。E

恨みを持っている私たちは、「人の目」から解放され、思う存分「敵討ち」をすることが自己実現であり、人生の（Y）性の発揮であると思いがちだ。しかしそれは違う。恨みを晴らし続けても、自分自身の自尊心や自己信頼が回復されなければ、私たちは永遠に「敵討ち」を続けなければいけない。それは（Y）性のある人生とはほど遠いものだ。

小さいときから「いい子」「いい友達」「いい妻」「いい母」と結局「いい子」をずっとやり続け、「人の目」と「条件

付きの愛」に縛られ、自分自身の人生には全く（ Y ）性がなかったと気づいた女性について先に述べた。そのことに気づくことは、それからの人生の大きな（ Y ）性につながる重要なきっかけだ。しかし、それから「親のバカヤロー!」「社会のバカヤロー!」と、「敵討ち」を始め、それを永遠に続けるようだと、それもまた「敵討ち」を一生続けるという、極めてワンパターンな（ Y ）性のない生き方になってしまふ。「敵討ち」は最初のうちはひとつの（ Y ）的な行為だが、しかしそこに凝り固まってしまえば「③内的成長」はそこで止まってしまふ。「敵討ち」を続けることは「敵」からの解放ではない。常に「敵」を意識し、そこから逃れられないという意味で、それは「敵」に支配され続ける行為なのだ。そこで自己信頼と自尊心が回復していかなければ、私は結局「敵討ち」という形で、常に「敵」に支配される人生を送ることになるのである。

（上田紀行『生きる意味』岩波新書）

《注》

※1 ルース・ベネディクト・・・一八八七〜一九四八年。アメリカの文化人類学者で、代表著書は『菊と刀』。

問一 空欄（ I ）〜（ V ）にあてはまる言葉として最も適当なものを、次の記号から一つずつ選んで答えなさい。

ア 例えば イ まず ウ しかし エ やはり オ つまり

問二 次の文は、本文中のある段落の最後にあったものである。本文中の [A]〜[E] のどこに補うのが適当か。その記号を答えなさい。

それは自分自身に対する「自尊心」だ。

問三 空欄（×）に当てはまる四字熟語として最も適当なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。

ア 傍若無人 イ 一網打尽 ウ 我田引水 エ 弱肉強食

問四 傍線部①「恥の文化」とあるが、筆者の考える日本の「恥の文化」とはどのような文化か。本文中の言葉を使って三十文字以内で説明しなさい。

問五 傍線部②「裏返し」とあるが、その意味として最も適当なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。

ア 反対の意味 イ 別の意味 ウ 同じ意味 エ 新たな意味

問六 傍線部③「内的成長」のために必要なことは何か。十五文字以内で説明しなさい。

問七 空欄（Y）にあてはまる言葉として最も適当なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。

ア 精神 イ 創造 ウ 効率 エ 合理

問八 波線部「〈我がまま〉への目覚め」とあるが、「〈我がまま〉」に「目覚め」た人が取る行動はどのようなものになると筆者は考えているか。それを端的に表した部分を本文中から探し、十五文字で抜き出しなさい。

問九 本文に書かれている内容の説明として最も適当なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。

ア 〈我がまま〉と〈ワガママ〉の根底には、自分自身を抑圧するように仕向けてきた親や社会に対する、その人独自の恨みがある。

イ 人は親からは「無条件の愛」を、教師や友だちからは「信頼」を与えられて〈ワガママ〉を乗り越えたと〈我がまま〉になれる。

ウ 日本人の大学生が〈我がまま〉と考えていることを、留学生は〈ワガママ〉と感ずることがあるが、それは価値観の違いによる。

エ かなり自己主張の強い文化や社会であったとしても、そこにも多かれ少なかれ〈我がまま〉と〈ワガママ〉の違いは存在している。

□ 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。

第二次世界大戦中、東京から近郊の村へ疎開した少年（氷川・三ツ池）が、疎開先の寺から脱走し東京へ向かっていた。しかし夜も遅くなり、怖くなって引き返したところを、捜索中の村人に見つかり、寺に戻ってきた。最初の会話は、その寺にいる子どもたちの世話係である藤城涼子のものである。また、後半にある文章は、子どもたちの担任である五代節雄の日記である。

「突立ってないで、坐りなさい」

常になく声が荒かった。

「先生はね、貴方たちの逃げたのを秘密にして下さってるのよ。いなくなったのが判って、皆が騒ぎ出した時、あの二人は、先生の用で井之口の町までお使いに行ってる、少し遅くなる予定だから、心配しないようにって仰有ったんです。粕谷先生が出征なさってから、五代先生お一人で、どんなに気を使っていらっしやるか知れないのよ」

五代は、彼女に留守を任せ、村長や警防団長の家を、捜索に協力して呉れるよう、頭を下げて廻ったという。

「夕方から、村長さんの家へ三度も出掛けていらしたわ。何をお話しなされたかは、黙ってらっしゃるから判りません。でも、①村の人が、われわれを厄介者みたいに思ってるのは、いくら貴方たちだって、よく知ってるでしょ。先生、きつと辛かったに違いないわ。貴方たち、六年生にもなって、其処まで考えられなかったの。仕方のない人たち」

藤城涼子は、傍の机にあった鉛筆を手に取り、②指を震わせて小刻みに机の縁を叩いた。③氷川は、遠く離れた場所から響いて来るもののように、その硬い単調な音を聞いた。彼の頭に、重く彼の体を浸すように罩めていた林の闇を、暗い奥深い所から伝わって来た立木の枝の触れ合う音が、拭われずに遺っていた。黙って坐っている窓の外にも闇はあったが、それは林の中とは較べようもなく、薄い軽やかな闇であった。

柱時計が鈍く打ち始めた。九時である。日の暮れ方から、途方もなく長い距離を歩き、また引返して来たと思われた時間は、僅か三時間足らずに過ぎなかった。三ツ池は、心持ち口を開けて、休みなく動き続ける寮母の手を見ていた。彼も暗かった道を思い出していたに違いない。

庫裡※いくりで人声がした。

「あ、帰ってらしたわ」

渡り廊下に激しい躰音あむしがし、迎えに立とうとする寮母を突退つまのけて、五代が入って来た。彼は※うしきいぎわ 闕あき際に立ち、何か言いたげに唇を動かしたが、言葉にはならなかった。

(中略)

「さあ、ちゃんと坐れ。坐って先生の方を見ろ」

(中略)

戸口に立って動かずにいた寮母が、座蒲団ざぶとんを差出し、彼はその上に正座したが、膝頭が震えていた。

「今、先生は村長に言われて来たんだ、もう一度こんな騒ぎを起したら、即座に村を出て行ってもらうとな。面倒ばかりかけて役に立たない疎開者に、これ以上、足りない食糧を都合してやる気になれないとまで言われたんだぞ。お前たちの我儘わがままのお蔭かげで、皆が飢える事になったらどうするんだ。それとも何か、お前たちに言い分でもあるのか、あるのなら聞いてやる。男らしく堂々と見え。氷川、どうだ」

五代は、波立った感情の露わな眼を、凝じつと氷川に注いだ。氷川は答えられなかった。言い分なんかありはしない、ただ母さんのいる所に行きたかったただけだ、と唇を噛みしめて思った。

「三ツ池、お前は」

三ツ池は深く首こうべを垂れ、何かを考えているように見えた。打たれた頬が、薄黒く腫れ上っていた。

「④言う事はないんだな。そうだろうと思った。それなら」

五代が言おうとするのを、三ツ池の悲鳴に似た声が遮った。

「先生」

「何だ」

「先生は、嘘つきです」

「何を言うか」

五代は腰を浮かしたが、辛うじて自制したようであった。顛顛に血管が浮いた。

「はつきり言ってみる。聞いてやる」

「家には、本当の事は何にも教えちゃいけないんですよ。虱が湧いたのも、御飯が足りないのも、全部隠しちゃって、家へは元気にしてるとしか書いちゃいけないんですよ。それで欺されて、母さん、飲んでるんです。だけど、だけど、そんなの嘘なんだ。ぼく、厭なんです。倅せんかじゃありませんか、母さんの所へ行つて、本当の事を言つてやろうと思つたんだ。先生、それがいけませんか、本当の事を言つては悪いんですか」

三ツ池は哭いた。女の子のような頼りなげな嗚咽が、外の闇に吸われて行つた。五代も、藤城涼子も動かず、氷川は、時計の秒針の音が高く耳につくのを感じた。戸口から寄せる風が、涼しく吹き通つていた。

「そうか。そういう事か」

やがて、五代が呟いた。この時、五代の表情から昂奮の色が消え、常の、やや沈んだ平静さが戻つて来ていた。

「確かに、先生は、お前に嘘をつくと命令するのと同じ事を言つたかも知れない。だがな、度々言つてるように、今は普通の時代じゃないし、集団生活は当り前の生活とは違うんだ。お前にはまだ判らないだろうけどな、三ツ池、集団生活は何時でもそれを護るために、凡ゆる手段を尽していなければ、実に簡単に崩れてしまうものなんだ。そういう時、何でもあけすけに言つてしまうのがいいとは限らない。お前のお母さんだつて、お前が倅せだと思つていればこそ、東京で安心して暮していられるんじゃないか。お母さんが此処へ来てお前と一緒に暮せない以上、無駄な心配をさせて何になる。却つて不孝じゃないか。三ツ池、人間にはな、本当の事を凝と隠しておく苦しさにはいけぬ時もあるんだ。それは卑怯な嘘とは違う。卑怯な嘘は一生の負目になるが、そうではない、謂わば⑤必要に強いられた隠し事は、時間さえ経てば、きつと笑つて打明けられるようになるよ」

五代は、これだけの事を長い時間を費して喋つた。自分の心に燃えているものを表すのに苦しむらしい口調であった。「解るだろう、な、三ツ池。お前だつて、もうこれ位は解つていい齡ごろだ」

俯向いていた三ツ池が、顔を上げた。彼の唇が震えた。

「先生、ぼく、帰らして下さい。もう厭だ。母さんの所へ、帰らして下さい」
新しくこみ上げた涙が、咽喉のどにからまつていた。

〔五代節雄の日記〕

脱走たくざんを企たくらめたのが、若し、曾根史郎そねしろうであつたなら、私はこれ程の打撃を受けなかつたかも知れない。彼にはその時々時々の衝動で身を処す傾向があるのを私は知っている。しかし、氷川と三ツ池という、私の級で最も穏和な性質の子がそれをやった事が、私を打ちひしいだ。温和おとなしい彼等を其処まで追いやつた鬱積うつせきした気持の重さが私を怖れさせる。彼等を殴つた時、私は夢中だつた。こんな事をして何になる、彼等との距だけりを大きくするばかりじゃないか、と途切れ途切れに思いながら、腕だけが独りでに動くようだつた。私は怖れていたのだ。私などが絶対に踏み込んではいけない場所を頑なに守っている生徒という他人が怖かつたのだ。今になって、はつきりとそれが判る。

昨夜、二人が寝るのを待って、私は電灯を点してみた。ああいう事のあつた後なのに、二人とも深く眠つていた。十歳の子はまだ幼い。頬には柔らかな産毛が生えていて、やや開き加減の目許めもとは、女の子にも近かつた。昔、私は或る母親から、夜中に子供の寝顔を眺めて、しみじみ親としての幸福を感じるといふ手紙を貰もらつた事がある。現に今も、集団疎開に子供を手放した何百人という母親が、自分の子のあどけない寝顔を思い浮かべている事だろう。しかし、その⑥幸福な母親たちは、自分の子の中に、⑦表面からは測り知れないものが、めざましく育つているのに気附いているだろうか。

(高井有一『少年たちの戦場』所収「夜の道」大空社)

《注》

※1 庫裡……寺の台所。

※2 闕……敷居。ふすまや障子を開閉する際のレールとなる部分。

※3 嗚咽……声をつまらせて泣くこと。

問一 傍線部①「村の人が、われわれを厄介者みたいに思ってる」とあるが、「村の人」がこのように思うのはなぜか。五十字以内で説明しなさい。

問二 傍線部②「指を震わせて小刻みに机の縁を叩いた」とあるが、ここから読み取れる藤城涼子の心情として適當なもの、次の記号から二つ選んで答えなさい。

ア 諦め イ 不安 ウ いらだち エ 恨み オ 怒り

問三 傍線部③「遠く離れた場所から響いて来るもののように」とあるが、ここから読み取れる氷川の心情として最も適當なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。

ア いつもは穏やかで優しい藤城涼子の態度が意外にも冷たいので、混乱している。
イ 夜の道を途方もなく長時間歩いて、結局無事に戻って来られたので放心状態になっている。
ウ これから担任の五代先生から厳しく叱られることを想像すると、恐怖心で一杯になっている。
エ 夜の暗い道を懸命に歩いたのに、結局母親のいる所にはたどり着けなかったので後悔している。

問四 傍線部④「言う事はないんだな。そうだろうと思った」とあるが、五代節雄がこのように思ったのはなぜか。その説明として最も適當なものを、〔五代節雄の日記〕を参考にして、次の記号から一つ選んで答えなさい。

ア 三ツ池の表情から反抗的な態度を感じ取りいらだつたから。
イ 氷川と三ツ池を殴ったことで気が動転し、何も考えられなかったから。
ウ 氷川と三ツ池は単なる衝動で脱走しただけだと思っていたから。
エ 温和な三ツ池が重たい気持ちを話すのを聞くことが怖かったから。

問五 傍線部⑤「必要に強いられてした隠し事」とあるが、これを言い換えた次の言葉の空欄に当てはまる言葉を漢字二字で答えなさい。

嘘も ()

問六 傍線部⑥「幸福な母親たち」とあるが、五代節雄がこの「幸福」という言葉に込めた思いとして最も適当なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。

- ア 子どもたちからの手紙に騙だまされている母親への哀れみ。
- イ 子どもたちからの手紙に安心してある母親への安堵感。
- ウ 子どもたちからの手紙を信じ込んでいる母親への危機感。
- エ 子どもたちからの手紙を楽しみにしている母親への同情。

問七 傍線部⑦「表面からは測り知れないものが、めざましく育っている」とあるが、これについて次の(A)(B)の問いに答えなさい。

(A) 五代節雄がこのことに気づいたことを表した、五代節雄自身の会話文がある。それを本文中から探し、「」を含めて抜き出しなさい。

(B) 子どもたちの中に「めざましく育っている」、「表面からは測り知れないもの」とは何か。その説明として最も適当なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。

- ア 戦争からは何も得ることがないということへの正義感。
- イ 村人たちが実は自分たちを歓迎してはいないという状況への理解力。
- ウ 自分たちが母親をだましているということへの罪悪感。
- エ 大人たちの言動の裏に隠された真実を見抜こうとする洞察力。

問八 五代節雄の人物像の説明として最も適当なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。

ア 外面では集団疎開で我慢を強いられている子どもたちのことを思っで行動しようとしているが、内面では戦時下の生活における様々な矛盾を感じ葛藤している。

イ 外面では集団疎開での子どもたちの生活を統率するために高圧的な態度で子どもたちに接しているが、内面ではそのような自分の行動に対して批判的な思いを持っている。

ウ 外面では集団疎開で迷惑をかけている村人に嫌われないよう体裁を整えているが、内面ではそのような村人に対して差別的な思いを抱いている。

エ 外面では先生という自分の立場を保つために様々な言動をしているが、内面ではそのような言動が集団疎開をしている子どもたちのためになっていないことに悩んでいる。

問九 この小説の作者である高井有一は、日本で有名な文学賞を受賞した人物である。この文学賞にはある有名な小説

家の名前が冠せられている。その小説家の名前として最も適当なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。

ア 夏目漱石 イ 宮沢賢治 ウ 芥川龍之介 エ 太宰治

㊦ 次の古文をよく読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、百済くだらの川成かはなりといふ絵師ありけり。世に並びなき者にてありける。滝殿たきの石もこの川成が立てたるなりけり。同じき御堂の壁の絵もこの川成が書きたるなり。

し※2かる間、川成、従者の童を逃しけり。東西を求めに求め得ざりければ、ある高家※3の下部※4を雇ひて語らひて①いはく、「己おのれが②年としごろ使ひつる従者の童、既に逃げたり。これ尋ねて捕へて得させよ」と。下部のいはく、「③やすき事にはあれども、童の顔を知りたらば（×）搦からめ。顔を知らずしては、いかでか搦めむ」と。川成、「④げにさることなり」といひて、畳※5紙※6を取り出でて、童の顔の限りを書きて下部に渡し、「これに似たらむ童を捕ふべきなり。東西の市は人集まる所なり。その辺に行きて伺ふべきなり」といへば、下部、その顔の形を取りて、⑤すなはち市に行きぬ。人極めて多かりといへども、これに似たる童なし。しばらく⑥みて「もしや」と思ふほどに、これに似たる童出で来ぬ。その形を取り出でて⑦くらぶるに、つゆ違ひたる所なし。「これなりけり」と搦めて川成がもとに⑧行きぬ。川成これを得て見るに、その童なればいみじく⑨喜びけり。

そのころこれを聞く人、⑩いみじき事になむいひける。

（『今昔物語集』巻二十四第五）

《注》

- ※1 滝殿・・・大覚寺にある建物。
- ※2 しかる間・・・ある時。
- ※3 高家・・・貴族。
- ※4 下部・・・下僕。使用人。
- ※5 畳紙・・・折りたたんで懐に入れておく紙。

問一 傍線部①「いはく」、⑥「みて」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

問二 傍線部②「年ごろ」、⑤「すなはち」の意味として最も適当なものを選びなさい。

②「年ごろ」

ア 長年 イ 思春期の ウ 若い エ 最近

⑤「すなはち」

ア そこで イ すぐに ウ すでに エ 命じられたとおり

問三 傍線部③「やすき事」の内容を説明したものととして最も適当なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。

ア 行方不明になった童を捕まえるのは安価で請け負えるということ。

イ 行方不明になった童を捕まえてくるのは簡単だということ。

ウ 行方不明になった童を必ず捕まえて来るので安心してほしいということ。

エ 行方不明になった童を捕まえるには身の安全を保障してほしいということ。

問四 空欄（×）にあてはまる語として最も適当なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。

ア ぞ イ なむ ウ や エ か オこそ

問五 傍線部④「げにさることなり」とは、「確かにその通りである」という意味である。これをもとに「その通り」の内容について説明しなさい。

問六 傍線部⑦「くらぶる」とあるが、何をどうすることか説明しなさい。

問七 傍線部⑧「行き」、傍線部⑨「喜び」の主語を、それぞれ本文中の言葉を抜き出して答えなさい。

問八 傍線部⑩「いみじき事」の内容について最も適当なものを、次の記号から一つ選んで答えなさい。
ア 川成の画才 イ 下部の活躍 ウ 滝殿の外観 エ 市の繁栄

問九 右の話の出典である『今昔物語集』は平安時代に成立した。では、成立年代が同じ平安時代の作品を、次の記号から一つ選んで答えなさい。

ア 古事記 イ 平家物語 ウ 奥の細道 エ 源氏物語

四 次の傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ①校則の改定案を生徒に諮る。
- ②憩いのひとときを過ごす。
- ③虚偽の話にだまされる。
- ④雌雄を決する戦い。
- ⑤溪流に泳ぐ魚を釣る。

五 次の傍線部のカタナカの言葉を漢字に直しなさい。

- ①タクみな手さばぎ。
- ②牛の乳をシボる。
- ③静かなコハンの風景。
- ④うなぎをヨウシヨクする。
- ⑤ジュンポウの精神。

一

問九	問八	問七	問六	問五	問四	問二	問一
							I
						問三	II
							III
							IV
							V

受験番号

氏名

得点

二

問九	問八	問七	問三	問二	問一
		A			
			問四		
				問五	
					問六
		B			

三

問八	問七	問六	問五	問二	問一
	⑧			②	①
問九	⑨			⑤	
				問三	⑥
				問四	

四

①	(る)
②	(い)
③	
④	
⑤	

五

①	(みな)
②	(る)
③	
④	
⑤	